
エロいオリ主(エロ魔)

カバ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

エロいオリ主（エロ魔）

【Nコード】

N4533Y

【作者名】

カバ

【あらすじ】

ヤンキーな少年が主人公の兄に転生しました。主人公を殴るオリ主です。サイト（笑）と戦います。そして、エロいです。戦いありエロありエロもあり寝取りあり……18禁って何だっけ？

ある所に一人の少年がいました。

少年は頭が悪くヤンキーでした。

けど、少年は熱い人情の持ち主でした。

友達のために警察署に車で突っ込んだこともありました。

少年はヤンキーでしたが、隠れた厨2病でもありません。

トラックが来ているのに、横断歩道を信号無視した男の子を助けようと自らも飛び込みました。

その時、少年の脳内は『ピンチになればシールドとか出てくるだろW』な感じでした。

トラックが来ます。ぶっちゃけ、余裕で逃げれるのに、男の子を抱えたまま動きません。けれども、目はしっかりとトラックを見つめています。

死にました。

男の子もです。

それを見ていた神様は言いました。

『あの子いいね』

少年は転生しました。

オイツス。俺の名前は平賀源。5才だ。2年前、目覚めたら知らねえ家の子になってた。なるほど、これが俗に言う転生ってやつか。ありがてえ。

げんくんはお祖父さんが仏教徒だったので、輪廻転生を信じています。体の持ち主は最初から自分と信じて疑いません。なので、『この身体の本当の持ち主は・・・』とか、『本当はあなた達の子供じゃないです!』などと言った葛藤はありません。思いません。気にしません。

4才

第が生まれた。赤ん坊を可愛いと金く思えない。サルにしか見えな
いだろ。

4

第?弟

金?全

5才

近所のガキどもが調子にのってたので閉めた。公演の王字は俺だ!

閉めた?シメタ(殴ること)

公演？公園

王字？王者

6才

親に日記を見られた。漢字間違えを言われたので、漢字をやめる。

7才

となりまちのガキどもにこぶんとなぐりこみにいった。となりまちのこうえんはおれのしはいかになった。

となりのいへのマコちゃんとかゆうをした。

8才

おとつとがちょうしにのったことをいったので、アッパーをかました。ははおやにおこられた。なぜだ？

マコちゃんとさわりっこした。

9才

おとつとがこうえんのゆうぐからおちてきぜつした。バカヤローだから、となりとなりまちのこうえんは危険だっていったんだ！

こうえんでひとりぼっちだったユミちゃんとしゃべるようになった。

10才

おとうとのせいかくがきぜつしてからかわった。「むひょー」とか「ひゃっほー」しかいわない。よくかんがえればおとうとのなまえは平賀才人……ぜろま？

となりまちのナナミちゃんにキスされた。

11才

おとうとがひきこもった。おれのへやに。おれのへやだぞ！おとうとをころそう金属バットでドアをぶち壊したら、後ろから父親に止められた。おとうとはなみだめでふるえていた。

パンツがカビカビしていた。

12才

最近頑張ったおかげで、漢字が出来るようになった。弟は学校に行くことを辞めていたらしい。小1の時には、行ってなかったそうだが、去年の出来事のせいで、俺と弟は離された。俺は祖母の家に行かれた。おかげで弟の体重以外、弟に関しては何も知らない。

マコちゃんとエッチした。

13才

中学校で大事なのは第一印象である。俺は髪の毛を青色に染めた。服は面倒いので、クマさん柄のパジャマのまま来た。俺の名前は結構有名らしく、皆ビビって避けて行く。代わりに先輩方が群がって来た。「おめえ、ちょうしこくなブヘイっ！」煩いので殴った。

俺は第一中学校の皇帝になった。

ユミの調教に取り掛かった。

14才

才人が先輩方に捕まったらしい。どうやら俺が目当てのようだ。『才人を助けたければ屋上に来い』。

俺はいつもより早足で家に帰った。つか、どうやって引き籠もりの才人をおびき寄せたんだ？

ナナミは名器だった。

15才

公園で寝ていたら、バイクを4人乗りしていたバカ野郎共がいた。煩いのでしばきまわした。

バイクをゲットした。

ユミとナナミと3p

16才

最近気付いたが、なんか俺の身体能力が前世より高い。アクロバットな行為が軽々と出来る。跳び箱30段ぐらいいけそうだ。

4 p

17才

俺の支配領域が県単位になった。

黒いグラサンにスーツを着た連中に勧誘された。

通りすがりの女、惟子とベットイン！

18才

山に武者修行に行く。ゼロ魔に向けて！

19才

山

20才

そろそろだろ？という事で下山した。祖母に別れを告げサイトの元へ行った。

秋葉原って、人生で一度は行って見たい場所だよな

「むはあ、この角度すら再現するとは・・・やるな」

フィンドーケースの前でひときわ太っている少年がいた。クーラーの効いた店内なのに汗は止まらず、離れていても漂う臭い。分厚い眼鏡は曇りその中の眼はイヤらしく光っていた。

「は、はまちゃん！い、今すぐ助けてあげるからね！そ、そしていろいろなことしようね！ハアハア！ぼ、ぼくちゃんのマグナムがヤバイい」

サイトは秋葉原のフィギュアコーナーで『プリプリなのは』のはまとちゃんのパンツを見ていた。後ろで店員が警察を呼ぶか迷っているが、そんなことには一切気づかない。

サイトは本当は別の目的で秋葉原に来たのだが、店に飾られていた等身大はまとちゃんについてい足が吸い込まれてしまったのだ。

「うへ、保存・鑑賞・実用・・・会話用もいるかな？かな？一応4つぐらい・・・ハツ！こんなことしてる場合じゃないっ！」

「・・・流石に原作をスルーしてしまう程残念なオタクではなかった。いや、既に十分手遅れではあるが。」

サイトは慌てて店の外に出ると、パソコンをつけて歩き出す。

「忍法・瞬身の術！」

サイトは叫ぶと同時に歩き出す。事前に通る道を考えていたらしく、ダブンダブンお腹を揺らしながら迷いの無い足取りで通りを歩く。もちろん、瞬身の術など発動しない。

しばらく歩くと・・・

「おおっ！こ、これがうおおおおー！」

サイトの前には輝く扉が出て来た。サイトはつい泣いてしまっている。そして、ズボンのチャックが膨れ上がる。しかし、扉はサイトの感動とよこしまな妄想を無視して、彼を吸い込んでしまった。

源

「クッソー。どこ行きやがった！サイトの野郎！」

ムカついたので、そばにある自動販売機を蹴り飛ばす。すると、驚くべきことに自動販売機は地面と平行に凄まじい勢いで前の店に突っ込んで行った。店のガラスが砂のように弾け飛ぶ。池袋のシズちゃんならず、秋葉原のシズちゃんである。

「はあく、スッキリした。よし、行こうか！」

ガラスが割られて飛び出て来た店員や周りの一般人を無視して源は

サイトを探しに歩き出す。

源は秋葉原にサイトがいることは分かっているのだ。しかし、いくら探してもサイトは見つからない。とりあえず、秋葉原を走りまわった。

30分後

「・・・あ、あれは！」

源の目の前には光り輝く扉と、それに吸い込まれるサイト。そして、サイトを囲むように大きなリュックサクサクなど重装備した大勢の人がいた。源は一瞬迷ったがそのまま人混みに突っ込んだ。

「うおおおっつおお！どけどけどけえええ！」

源凄まじい走りに人混みが割れて行く。

「イタツ！・・・おいっ！協定違反だぞ！」

「誰か止める！」

「ていうか、あんなやつ教団にいたのか!？」

何やらほざいていたが、全てを無視して源は扉に飛び込んだ。

主人公が動かしにくい

ルイズ・フラ（以下略）は使い魔の召喚に喜んでいた。

（たしかに手応えがあったわ！）

今までとは違い手応えのようなものを感じたのだ。

（一体、どんな使い魔かしら？竜？それとも、ペガサス？いいえ、そんな贅沢言わないわ！なににせよ、私にふさわしい高貴な使い魔なのは？だから！）

ルイズの頭はスカポントンであった。

そして、煙が徐々に薄れて行く。そこに現れたのは！

「私の使……ヒイヒイヒイヒイ！！！！！！」

ルイズが気絶した。

慌ててそばにいたコルベールがルイズを抱える。

「だ、大丈夫ですか！？ミス・ルイズ！一体、何を……ウギヤアアアアア！！！！！！」

コルベールの髪の毛が一瞬にして真っ白になった。その様子を見て、周囲の生徒がざわめき出す。

「お、おい。なんかヤバくねえか？」

「た、たしかに・・・君が見に行ってくれたまえ！」

「な！何で僕が！そういう君こそ行きたまえ！」

「な！分かって（以下略）」

的な会話が行われていると、気絶していたコルベールが目を覚ました。

「・・・うう、何かとてつもないもの見た気がする」

コルベールは余りのショックに先程の記憶がなくなっていた！コルベールはしばらく状況を確認に手間取ったが、意を決してもう一度煙を覗き込む。そこには、醜い肉の塊がいた。

サイト

ありのままに起こったことを話すぜ。着いたと思ったら、ルイズとコルベールが気絶してたwまだ煙が周囲に広がっているけど、こいつらは僕と近いから僕の美しさに気絶してしまったにちがいない！むはぁ、これはフラグか？ルイズたん助けてムチヨムチヨパンパン的なフラグだろ、ウへ

ルイズたん助けてあげるよ

僕はルイズたんに近づくことすると、

「・・・つてえ・・・。おお！ここから俺のサクセスストーリーが始まるんだな！」

その時、僕の首は生まれて一番の速度を出しただろう。なんせ僕の記憶が正しければ、この声は・・・

「ん？・・・いよおう、サイト。また、太ったか？」

僕が想像しうる限り最悪の人物、平賀源がいた・・・orz

僕の脳味噌はフリーズする。そして、思考の海にダイブした！

平賀源・凄まじいポテンシャルを持つ。凄まじいヤンキー。凄まじい運動神経。凄まじい程バカ・・・。。。。。。これだ！

僕の優秀な脳は素早く最善の作戦を立てた！

「そんなことより、にいちちゃん！さっきにいちちゃんが寝てる間にいちちゃんを殴ったヤツが・・・へボお！！！」

凄まじい力で胸ぐらを掴まれる！ばれたかっ？！

「どこに行きやがった！そいつは！俺のゴッドフィンガーで叩き潰さねばならん！」

WWW成功したぜえWWWちよつとチビつたぜ!

「あつちだよんWWW」

僕は学園と反対の方向を指す。つーか、そろそろ煙がなくなつて来てる!早く行けよバカ!

「感謝する!」

僕の念が通じたのかにいちや・・・源は視認出来るぎりぎりのレベルで森に突っ込んで行つたWフツ余裕W

僕はそろそろ起きるであろうコルベールを横目に身だしなみを整える。実は僕、服装から狙いに行つてるのだ!何をか、って?女性キヤラフラグだよ!略してHフラグ!

まず、ティシャツは銃殺天使ドロクちゃん!これで『その絵の子つて誰?』的な会話になる!しかも、女子は可愛いものが好きだしなWドロクちゃんカワイイよおハアハア

さらにズボン!ワンパークのルフィの半ズボンと同じデザインなのだ!これで僕の格好良さがup!

そして、極め付けはコート!舐められない様に特注のワンパークのクロコダイルコートだ!

もうスキなしだろ。もしかしたらモテ過ぎてヤバイかもWコルベール起きそうだし、最初は格好良く決めたいので、ルイズたんを放置

して二人の前で仁王立ちしておく。

「……………う、うう」

コルベールが起きた。

むはぁ、ここから僕のサクセスストーリーが始まるだね

……………あれ？なんかさっき同じセリフが

主人公が動かしにくい(後書き)

サイト君はサブ主人公です。

流れるにモブキャラ扱いは無理なんで

5 (前書き)

二日に分けて書いたので、微妙な感じになりました(・_・)

「ウウウウオオオオオオオオオオ！！誰か止めてくれええええええええええ！！！！！！！！」

俺の名前は平賀源！主人公（笑）を弟に持った、封印されし力を持つ男だ。まあ、いつも封印の力は発動しないんだが、だが、

今回はそうじゃないらしい。

サイトに教えられた通り走ってたら、ズーっと森だった。そりゃもう疲れた。つーか、倒れた。そしたら不思議な事に勝手に足が動き出したんだ。そして、それ以降止まる気配もなく走り続けている。さらに言うなら超しんどいパネエっす。

走りながら吐くなんか漫画の世界だと思ってたよ。

木にぶつかって痛くないなんて漫画の世界だと思ってたよ。

「……………ん？あ、あれは！」

俺の走る先には人がいた。

「おおい！止めてくれえ！」

俺は大声を上げる。

しかし、その人は見つけれないらしくキョロキョロしている。その時、ふと、思ったのだ。

俺は視線を下げる。

そこには強靱に鍛えられた裸体があった。

「ウゲエ」

喉の奥から変な声が出る。

源の服は木に当たるたびに削られていたので、申し訳程度の服すら残っていなかった。

流石の源でもこれはヤバイと分かる。視線を戻せば、先程の人はまだ探していてくれるらしく、キョロキョロしている。しかし、もうじき相手にも見えるだろう。

源は泣いた。

泣きながら覚悟を決めた。

やや開けた空間に飛び出す。その人は女性だった。タイミング良く？女性は反対の違う方向を探していたらしいが、ちょうど音のした方向・・・よーするに源が飛び出た方に振り向こうとしている瞬間だった。

源は涙を通り越して血の涙を流しながら叫んだ。

「こつちを・・・見るなあああ！」

女性はビクウ！として固まる。

源はその姿を見てさらに罪悪感が追加された。

それから50年後

とあるワインの産地の村

「おばあちゃん。そんなおばけがいるの？僕怖いよ」

「大丈夫、おばあちゃんが守ってあげるよ」

「うん！叫び声が聞こえたら僕、おばあちゃんのところに行くよ！」

今

源はアルビオンに行くための港町（名前忘れた）に着きそうだった。この辺りは人が多いらしく、人とよくすれ違う。源の足は先程ついに止まり、ようやく歩ける様になった。しかし、源の顔色は優れなかった。そんな源の横をかなり美人な2人組の美女が後ろから通り越して行く。

「ねえ、知ってる？最近新しいケーキ屋さんが出来たんだった！」

「本当！？私早く行きたいわ！」

「ええ！私も！本当に楽しみ！」

「そうよね！それに……………」

「……………はぁー」

二人が離れて行ったあたりで、源は大きく息を吐いた。

「無理だ。あんな奴らじゃ愚息は立たん」

いや、源がB専と言うわけではない、先程の二人も容姿の点では満点に近いのだが、

「匂いがない」

そうである。ここは魔法的要素以外は全て中世なのだ。貴族や商人はまだしも、平民は風呂など滅多にはいるものではない。

結果、臭い。

やや匂いフェチな源には、耐えられるものではなかったのだ！

「あいつら臭すぎるだろ体洗ってこいよな……………ん？」

文句を言いながら、港町に向かって歩いてみると、突然後ろからいい匂いがしてきたのだ。花の様な柔らかな匂いが源の鼻に直撃した。そして、ガラガラと一台の馬車が後ろからやって来た。

白馬に引かせた豪華な馬車で、中の人間の高貴さが分かる。しかし、源はそんなことはどうでもよかった。

(こいつは・・・)

外からでも分かる、この匂いは馬車の中からである。

馬車が源の横を通り過ぎて行く。

中には一人の少女がいた。紫に近い髪の色を持ち、すんごく美人である。と言っても、カーテンが掛かっているため普通は見えないのだが、地味に全身強化されている源の眼は確かに見えたのだ。

(・・・アンリエッタか！)

ガラガラ

馬車はどんどん進んで行く。そして、その下・・・馬車の底に源はいた。そして、どうやってそこに穴を空けようか考えながら呟いた。

「狙った獲物は逃がさねえ」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4533y/>

エロいオリ主(エロ魔)

2011年11月16日19時43分発行